

申17号 2021年度賃金引上げに関する申し入れ 21春闘 第2回目交渉で満額回答を強く求める！

組合

- ◆極めて厳しい経営状況は組合員の努力なしには乗り越えられない。この1年間を振り返った上での組合員の評価は、
- ◆非常に苦しい悲痛な声が出されていることは事実。実質賃金も低下しており9か月連続で前年割れ。目に見える形で還元することが非常に重要だ。生活の安定をしっかりと保障していくことなくして社員・家族の幸福の実現はあり得ない。
- ◆新卒一括採用、終身雇用、年功序列型賃金は重要なものだ。雇用不安をことさら煽るようなことは認められない。
- ◆利益剰余金が2兆4000億円を超え、5年間で約8000億円上積みをしてきたと言われている。蓄えがあるにも関わらず厳しいということでは済まされない。
- ◆期末手当は対前年で約240億円抑制されている。一方で、例えば羽田空港アクセス線は約3000億円掛かると言われている。今やるべきことなのか。厳しいから賃上げがなくても仕方ない雰囲気を作られている。どう考えても納得いかない。
- ◆業務に必要なものまで削減されている。その一方で感染防止やサービス向上と言われても無理がある。働きがいや意欲あるチャレンジということになっていかない。
- ◆コスト削減をする部分としなない部分の棲み分けができていないのではないのか。そこを無くして賃上げは厳しいということにはならない。年次計画にある決意と実行の1年に立ってもらうためにどうするのかを考えること。出し渋るのではなく前向きに納得できる回答をすること。
- ◆定期昇給の考え方に変更はないことの良いか。6000円の引上げも含めて支払い能力、出せる体力はある。
- ◆第二基本給は年数が経つほど影響してくるので早く廃止すべき。調整給の導入も同じく早めに判断すること。
- ◆厳しい経営環境を乗り越えるべく現場では感染リスクを背負いながらも真面目に担ってきた結果、ここまでの決算で抑えられた。こういったことにしっかりと報いて還元することが必要だ。人への投資が社員と会社の持続的な成長に繋がることを踏まえ、要求の趣旨を受け止めたうえで満額回答することを強く要請する。

会社

- 感染症対策に取り組みながら社会的使命の完遂に尽力いただいていることに対して改めて感謝申し上げたい。
- 組合の主張や現場からの声があることは承知している。ポストコロナかつ人口減少という中であっても会社の持続的な成長の実現をすることで働きがいや労働条件の向上に繋げていく好循環を生み出していきたい。
- 各社に合った制度にしていくことが提起されているが、当社として検討しているものや考えていることは無い。
- 昨年度の収入から2割減ると4000億円減ることになり、それだけで赤字が見えてきてしまう。少しの変動で厳しい状況になってくる。当社は固定費の割合が多くコロナの影響を受けやすいことなどから、判断に一定の慎重さは必要。
- 手元の資金が乏しいので確保するには借りるか財産を売ることになる。資産を売却して使うことは将来にも影響してくる。一般的に言われることは承知しているが、単純な話ではなく総合的に考えていかねばならない。
- 期末手当自体は支払う水準があるわけではなく、今般の状況の中で業務遂行や今後のチャレンジを含めて判断してきた。投資の必要性があるものに対しては行う一方で不要なものには使わないという考えのもと実施している。
- コスト削減は、やるべきことはやっつけていかなければならない状況の中、安全は大前提だが試行錯誤的な部分はある。
- 定期昇給は協約や賃金規程にある昇給係数4以下ということに基づいて判断していくことになる。
- 第二基本給については賃金制度全体を見直していく中で退職手当も合わせて検討していくもの。現時点で計画はないが、会社としてどのように回答するのかは検討して回答していきたいと考えている。
- 今回の議論も踏まえた上で会社の経営状況もしっかり判断しながら、慎重に総合的に判断していく。

会社には生活を保障する義務がある！今こそ満額回答すべきだ！